

中学校区におけるめざす子ども像  
自分で目標を持ち、思いやりを行動に移して、豊かな人間関係がつかれる子

堺市立美木多小学校  
校長 井上 敬子

令和7年度 重点目標  
「子どもの未来をつくる美木多小学校・城山台小学校」 学びの選択肢を増やししながら、友だちと共に学びを楽しみ、自分の学びを次へ次へとつなぎ、学びを広げられる学校  
～協働的な学びを通し、お互いに認め合える子どもの育成～

「確かな学び」の現状 昨年度実施した全国学力・学習状況調査やすくすくウォッチの状況から、各教科の学力面において全国や大阪府の状況に比べると低い状況にある。また、全体的に基礎学力の定着については課題がみられ、無解答率にも改善の必要性がみられる。今年度も基礎学力の向上と合わせて、変動が激しく予測不可能で複雑な問題を生き抜くための力として、自分の考えを持ち筋道を立てて考え、解決に向けた学び方を習得できる児童の育成に力を入れる。 そこで令和7年度の研修テーマを『自己調整力を育む子どもを育てる』～ふり返りで深め、認め合いでつなぐ学び～とし昨年度までの研修で積み上げてきた「学びのコンパス」を土台に授業改善・実践等を通して児童の学びの向上をめざす。	「豊かな心・健やかな体」の現状 ・昨年度の学校教育アンケートにおいて、「自己肯定・自己成長力」にかかわる項目や「学校に通うのは楽しいか」の肯定的回答の割合が高く、子どもたちの学校生活が充実していることの表れであると考えられる。この状態を維持向上できるように、今後も学校での教育活動全般を通して、成功体験や達成した喜びを積み上げていきめ細かな取組を継続発展させていきたい。 ・本校独自の取組である様々な運動を取り入れた美木多サーキットやリズムなわとびを通して、児童の意欲を高めながら体力向上のための取組を継続させていきたい。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学びに向かう力の育成	○主体的に学ぶ子どもを育成する	学びの自己調整力を育むために、授業のふりかえりを充実させ、認め合いで学びをつないでいく。	子どものノートのふりかえり	研修委員会での検証	12月	○ 全学級で授業のふりかえりに取り組み、ふりかえりの質の向上もみられるようになってきた。美木多っ子学習の「ノート展覧会」の取組も、定着してきている。	○ 学校教育アンケートの肯定的回答は、「学習でわかったことや自分の考え、ふりかえりを書いている」80%、「自分でこんな学習をしてみたいと考えたことがある」74%であった。また、美木多っ子学習に関する項目についての肯定的回答は、82%であった。今後も、引き続き取り組んでいきたい。	○ 学習のふりかえりはとても大切だと思います。「ノート展覧会」など、子どもの頑張りを発表できる場になるので、とてもよい取組だと思います。
			家庭学習の充実を図る。美木多っ子学習の「ノート展覧会」を全学年で実施する。	全学年での実施	研修委員会での検証・実践報告	12月	◎	◎	◎
	授業改善	○個別最適な学びと協働的な学びを進める	●★児童の学びを深めるための授業づくり(学びのコンパスに沿った授業改善の工夫)を行うために、全学年で研究授業を行う。	全学年が年1回の研究授業を実施し、全職員が授業検討会に参加する	教職員アンケート	12月	○ 学びのコンパスに沿った授業改善に取り組む中で、「子どもの発言をつなげる」意識が広がってきている。授業でパソコンを毎日活用している学級が増えてきて、授業での発言が増えるなどの成果が見られる。	○ 教職員アンケートの授業改善や学習展開の工夫についての項目の肯定的回答は82%であった。また、学校教育アンケートの「タブレットを使って発表したり、交流をしたりすることができる」の肯定的回答は80%であった。今後も、児童の学びを深めるための授業改善に学校全体で取り組んでいきたい。	○ 子どもたちのために教職員のみならずが授業改善に取り組まれていることは素晴らしいと思います。予測困難な社会を生き抜いていける子どもたちを育てていただきたいと思います。
			日常的に授業でパソコンを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを進める。	3年生以上の全学級で、週3回以上、授業で10分以上活用する	研修委員会での検証・実践報告	各学期末	◎	○	○
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	○学校全体で人権教育を推進し、あらゆる場面で考えを伝え合い、認め合い、支え合える集団作りを進める	学校全体でポジティブな行動支援を行い、自尊感情を高め、友だちと豊かな心で関わり合える集団作りを行う。	学校教育アンケートで80%以上肯定的評価がある	学校教育アンケート	12月	○ 情報共有をこまめに行い、月に一度朝礼でいじめについて考えるような講話を実施している。1時間に3回ほめることを意識し、過程や努力、本人に響くほめ方を意識している。各学級でお互いを認め合う活動を行っている。	◎ 学校教育アンケートの肯定的回答は、「先生はよい所をほめてくれる」87%、「自分にはよい所があると思う」84%であった。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的回答は、92%であった。今後も、教育活動全体で人権教育を推進していきたい。	◎ 子どもの長所を学校全体でほめていくことは良いことだと思います。いじめに関するアンケートの事後のフォローをていねいをお願いしたいと思います。
			いじめの未然防止に向けた取組を推進するとともにいじめの早期発見に努め、いじめ事象には組織的な対応で早期の解決、再発防止を図る。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える割合90%以上を維持する	学校教育アンケート	12月	◎	◎	◎
	健やかな体の育成	○仲間と一緒に体を動かすことの楽しさを感じられるようにする ○安全管理・危機管理体制の確立(食育や健康教育などの充実と推進)	美木多サーキット・リズムなわとび等、本校独自の取り組みの充実を図る。休み時間に体育館を開放し、運動を促進する。	全学級で実施することができる	保健安全部会での検証	12月	○ 美木多サーキットについては学校行事の関係上半年によって差はあるが、各学年でできる範囲で取り組んでいる。体育館開放については全学年実施している。食育通信、保健だよりについては毎月発行、食育指導も実施している。	○ 学校教育アンケートの美木多サーキットやリズムなわとびに関する項目の肯定的回答は82%であった。また、食育指導や健康指導に関する項目の肯定的回答は85%であった。今後も、体力向上へとつなげていきたい。	○ 朝食を食べる児童の割合を100%にすることができれば良いと思います。食事や運動は子どもの成長に大きく関わると思いますので、引き続き取組をお願いします。
			家庭との連携を図った食育指導や健康指導の充実を図る。	食育の授業を全学級で実施「食育通信」「保健だより」を毎月発行する	実践報告	随時	◎	◎	◎
地域協働	家庭地域との連携	○学校・家庭・地域の協働による教育の推進	保護者・地域に開かれた学校づくりのため、参観・懇談等の機会を適切に設ける。	学校教育アンケートで肯定評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○ 1学期に日曜参観、体育参観、希望制個人懇談会と1学期個人懇談会実施。2学期も土曜参観、個人懇談会実施。全校児童で地域清掃を行った。PTAと月一回の会議を行い情報共有および協働に努めている。	○ 学校教育アンケートの「学校は、参観・懇談の機会を適切に設けている」の肯定的回答は84%であった。また、地域行事への児童の参加を通して、地域や保護者と連携することができた。今後も、各種団体との情報共有に努めていきたい。	○ 引き続き、参観・懇談等の機会を適切に設け、学校・家庭・地域の協働による教育の推進をよろしく願います。
			伝統ある本校区における各種地域団体との情報共有および協働につとめ、信頼関係の構築に努める。	地域の方から学校への信頼を意味する言葉や評価をいただく	学校協議会等会議、地域行事時	随時	◎	◎	◎

校長より(年度末) 「授業が楽しい」と肯定的に感じている児童が85%いますが、「こんな学習がしてみたいと考えたことがある」児童は74%と低調でした。子どもが自らやってみたいと思える授業の工夫や探究的な学習が必要だと感じます。また、「学校では安心して安全に過ごすことができる」児童は89%で、児童のうち1割は不安を抱えている実情が見られることについて、教職員が真摯に受け止め、子どもたちの安心、安全な場所としての学校を創造するため、重点的に取り組んでいかなければならないという思いを持っています。 よりよい教育活動の実現に向けて、教職員一同、尽力していきたいと思います。	学校関係者評価者から(年度末) 児童のアンケート結果を見ると、「学校に行くのは楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「学校では安心して安全に過ごすことができる」のそれぞれの項目に否定的な回答をしている子どもたちが一定数いると思います。その子どもたちへの支援をお願いしたいと思います。 また、今年度の取組で良かったものについては、今後もぜひ継続して取り組んでもらいたいと思います。
--	--